

ひめまつ

56

須賀淳校長先生勲三等瑞宝章受章記念号

宇都宮短期大学附属高等学校生徒会

ひめまつ 目次

(第五十六号)

表紙……山名由夏

題字……石川木魚

写真……写真部・編集部

随想

優しい心づかいの運動

校

長 須賀

淳……………1

随想

中身の詰まったトマト

副

校 長 須賀 英之

……………6

特集

校長先生に勲三等瑞宝章

……………10

短大に人間福祉学科増設

……………14

◆みなさんの支えとなる生徒会を目指して(新生徒会長に就任して)……………手塚 彩由美……………18

◆より素晴らしく、より活発な生徒会を(任期を終えて思うこと)……………齋 藤 亜佑美……………19

〈声〉

二十一世紀を迎えて……………20

「新世紀のスタートに」……………三年 加藤 友美
「出発」……………三年 河野辺里子
「本校に学ぶすばらしさ」……………二年 須田真由美

「よき環境に感謝」……………二年 赤嶺 高子
「二十一世紀へのメッセージ」……………二年 佐藤 由梨
「この学園での友との出会い」……………二年 廣田 麻代
「新世紀にむけて」……………一年 齋藤 芽里

*心に強く響くもの (校内読書感想文コンクール入賞作品)……………24

一位「モリー先生との火曜日」……………三年 山本 暁子
二位「砂の女」……………三年 日野 雄仁
三位「スカイ・クローラ」……………三年 青木加奈子
一位「塩狩峠」……………二年 小原 由佳
二位「16週」……………二年 高野ひろみ
三位「ムーン・ライトシャドウ」……………二年 長嶋 祥子
一位「センス・オブ・ワンダー」……………一年 菅原 佑香
二位「ガラスのうさぎ」……………一年 齋藤佳代子
三位「アンネ・フランク」……………一年 菊地 純

◆第十回とちぎ教育の日提言コンクール入賞作品……………39

優秀賞「音楽と私」……………三年 人見 綾子
優秀賞「車と私」……………中学三年 倉持 徹郎
佳作「音楽と私」……………二年 小野千恵子
佳作「音楽と私」……………二年 坪山 恵子

講評

読書指導係

大塚 貴史

◆作品集……………46

詩

〔二年〕渡辺 智佳

〔二年〕菊池 香織

俳句

〔二年〕奥村 りん

短歌

〔二年〕酒巻 亜矢

★あとらんだむ

「国際平和ミュージアム」に行つて
ボランテアに思う
国境なき医師団のこと

三年 上野 隼矢
二年 斎藤 真美
二年 手塚ゆかり

三年生の抱負と将来の夢
「高校生生活・二年目」

旧二年 高田 千春
旧一年 吉田有里亜

月関西・大笹・那須の旅

〔三年〕 四泊五日の屋外授業
〔二年〕 大笹牧場で得たもの

渡辺 竜悟
大山 莉沙

〔二年〕 那須大学からりんどう湖へ

諸田 拓哉

招待席

私の英国体験から

新江 敏

地方都市・宇都宮

和久 誠

わがホームルーム紹介

三年・二年・一年

委員会・クラブ報告

★学園告知版

本校先生方による短大人間福祉学科見学・中国・四川大学から来校・アンナさん帰国・敬老の日に贈り物
スクールコンサートに参加・文化講演会開く・投書・守谷浩和先生が急逝

◎教生、母校の教壇に

津田塾大学 稲葉 麻美 立教大学 藤田 順和 埼玉大学 菅谷 知明 立正大学 久保田 忍

附属中コーナー

- この一年間のおもな活躍●クラス紹介●行事紹介
- 栃木県人権作文コンテスト最優秀作品 ひまわり 一年一組 築嶋 ゆき
- 校内読書感想文コンクール作品 〔二年〕 菊地 愛 〔三年〕 金田 大亮
- 少年の主張河宇地区大会優良賞作品 三年二組 阿久津 佑
- 二年一組短歌選●各種「善行賞」を受賞●写真で見る中学校生活

◎平成十三年度生徒会報告

宇都宮短期大学附属中学・高等学校

校歌

作詞 菅谷 徳次郎
作曲 野原 幸夫

ふに たら の たし かげ ねを はるめ かまに あこ おー ぎつ
 まか なわ びら の むみ ちさ すお はま さま きよ くろ あず れよ とど
 かか たた みに ちい かわ い て い そ し し み は げ む
 おま しな びの にー わわ こそ げに とめ うで た け れ
 ああ わわ れれ とめ うで とた こー の まま なな びや

校歌

一 一 荒の高嶺を 遙かに仰ぎ
 学びの道筋 まさきくあれと
 かたみに誓いて いそしみ励む
 教えの庭こそ げに尊けれ
 あわれ尊 この学びや

二 庭面に茂れる 姫松小松
 変わらぬ操は 千代万代と
 かたみに祝いて いそしみ励む
 学びの庭こそ げに芽出度けれ
 あわれ芽出度 この学びや

編集後記 編集委員長 白土 智恵 191

職員住所録 186

就職状況 183

須賀 淳校長先生に勲三等瑞宝章



▲叙勲を祝う教職員懇親会で謝辞をのべられる須賀校長先生(平成13年12月1日)



▲教職員代表の山形恵子先生から花束を受けられる校長先生



▲お祝いの懇親会に出席した先生方



▲叙勲伝達式場の須賀校長先生ご夫妻(平成13年11月9日、国立劇場)



▲栃木県文化功労者として表彰を受けられる校長先生(右) そのうしろは万里子副校長先生(平成13年11月1日、県公館)(下野新聞社提供)



▲教職員懇親会の席上お祝いの花束を受けられる校長先生ご夫妻

一人は
一校を
代表
する

学園の四季



▲各方面からの期待を集めて行われた宇都宮短大人間福祉学科の開学式、式辞をのべられる須賀学長先生 (5月30日)



▲感激の卒業式、校長先生から卒業証書をいただいで(平成13年3月2日)



▶ 築島亨先生の文部科学大臣表彰を祝って万里子副校長先生から花束贈呈 (12月1日)



▲新入生の各クラス担任の先生方が紹介される入学式 (4月10日)



▶ 学校祭に校長先生のご案内で展示室を見て回られる森山法務大臣 (10月28日)



▲学校祭には応援にこられた保護者の方々が餅つきのサービス (10月27日)



▲12月から職員室のすべての先生方の机上にパソコンが配置されて進学指導の充実がはかられています (1月5日)



▲読書感想文コンクールで校長賞を受ける表彰生徒 (11月5日)



▲交歓会でニュージーランドの歌を合唱するハウィックカレッジの生徒たち (9月25日)



▲宇都宮市社会福祉協議会へ歳末助け合い募金を寄託の生徒会代表 (12月3日)

取れた人間形成を目指すことをいいます。そして、先生方の丁寧で、きめ細かな指導のもとで、一人ひとりの生徒の持っている能力・特性を伸ばし、個性を磨いてゆきます。この理念を達成するため、「一人は一校を代表する」を生活目標として、優しい心づかいの運動を展開しています。



校長 須賀 淳あつし

須賀学園は、明治三十三年の創立以来、「全人教育」の教育理念のもとに、立派な人材の育成に取り組んできました。

「全人教育」とは、生徒の皆さんが日頃精を出している学業、技術の修得や資格の取得にすぐれた成果をあげること、はもちろんのこと、人間として誇りを持ち、他の人に対しても思いやりを忘れない豊かな人間性を育て、バランスの

随想

優しい心づかいの運動



▲生徒会に対する抱負を訴える立会演説会 (11月13日)



▲熱心に候補者の熱弁に耳をかたむける出席者 (11月13日)

改選員



▲さあ、あなたは誰に……、投票する3年19組の皆さん (11月14日)



▲いざ、開票、票の行方に眼が集まる (11月14日)

生徒会役員

副会長 有坂真奈美	副会長 濱田政樹	会長 手塚彩由美	
庶務 佐伯剛史	庶務 三浦亜希	会計 田中良平	会計 中村一弥
議長団 藤本健太郎	議長団 石田 恵	議長団 松本智尋	議長団 森田政義

その一環として、中学生、高校生が福祉施設の慰問を行ったり、生活教養科の高校生が福祉施設での実習を行っています。また、今年度からスタートした宇都宮短大の人間福祉学科も、介護技術などの習得のみならず、人間性豊かで、倫理観をしっかりと身につけた、優しい心を持った人材を世に送り出すことを目標としています。

最近、未知の方から、次のようなうれしいお手紙をいただきました。

十二月のある日の夕方、四歳の女の子が迷子になり、泣きながら田川沿いを歩いているところに、本校の女子生徒が通りかかり、寒いだろうと自分のマフラーを首に巻いてあげて、その子のお兄さんが通っている小学校まで送っていったというのです。私は、幼いお子さんが無事であつてよかったですと思うと同時に、本校生徒の優しい心づかいに感心しました。

もう一つは、学校の近所にお住まいの方から、次のような感謝のお便りをいただきました。

下校途中の本校生徒が、庭仕事のお年寄りに「こんにちは」と元気に声をかけて通り過ぎました。その一言がとてもうれしく感じられたそうです。この方はお手紙のなかで「たったひとことが他人を喜ばせる」と書いておられます。こうした優しい心づかいで、たくさんの人びとが幸せになれることを知って欲しいと思います。

ところで、皆さんはロータリークラブという名前を聞いたことがあると思います。ロータリー

クラブはアメリカに生まれ、世界中に支部を持つ「奉仕の理想」を目指す組織です。私も宇都宮西ロータリークラブに所属しています。ロータリークラブは、行動したり、言葉を発するときの心得として、「四つのテスト」という指針を持っています。この「四つのテスト」は、ロータリークラブのメンバーだけにとどまらず、生徒の皆さんの生活全般にもあてはまることだと思えます。

「四つのテスト」

言行はこれに照らしてから

- 一、真実か どうか
- 二、みんなに公平か
- 三、好意と友情を深めるか
- 四、みんなのためになるか どうか

さて、このロータリークラブでは、皆さんのような若い世代の人々を育てる目的で、各地の高等学校にインターアクトクラブを作り、「奉仕」の心が育まれるよう指導しています。本校にも昭和四十九年にインターアクトクラブが創設され、さまざまな奉仕と国際交流などの活動を行って



▲宇都宮短期大学須賀友正記念ホールで行われたインターアクトクラブ年次大会の開会式で挨拶する須賀淳校長先生



▲インターアクトクラブ年次大会の会場となった宇短大で、最新の設備をもつ人間福祉学科の実習施設を使って介護体験学習をするロータリークラブとインターアクトクラブのみなさん

います。

去る八月、栃木県地区のインターアクトクラブの年次大会が、本校インターアクトクラブと、提唱クラブである宇都宮西ロータリークラブをホストとして開催されました。「一人間はひとりでは生きられないー福祉について考えよう」を大会テーマに、会場となった宇都宮短大には、県内各地の高校からインターアクトクラブに所属する高校生たちが大勢集まりました。大会では、来日した韓国インターアクトの高校生も交えて、宇都宮短大人間福祉学科の先生方や学生たちの御指導で、介護体験などの研修を行いました。大会に参加した高校生たちは、非常に熱心に研修に取り組み、その姿から福祉や介護という分野への関心の高さがうかがえました。社会の高齢化が進むにつれて、こういった福祉の分野の重要性が増すことは今さらいうまでもありませんが、私は、高齢者や障害者のみならず、わたしたちとともに生活するすべての人々に対して、優しい心をもって接することが、今後のわたしたちの社会に大きな利益をもたらすものと確信しています。「こんにちは」のたったひとことが他の人にしあわせを与えることができるのです。皆さんも優しい心づかいをひとつひとつ積み重ねて、自分も、他の人も明るい生活が送れるようにつとめてほしいと思います。

随 想

中身の詰まったトマト ―競争、共生、我慢―

副校長 須賀英之



今年のお正月、新聞紙上で意外なニュースを発見して、懐かしく思うと同時に新たな感慨を持ちました。それは、「ユニクロが野菜販売に進出、提携先は緑健研究所（代表者 永田照喜治）」という記事です。十数年前、銀行に勤めていた私はユニークな農法でトマトやみかんを作っている永田さんと出会い、これを全国に広めるために、「生産者に農機具をリースできないか。」とか「大企業の工場跡地を有効利用したい。」といったご相談にあずかったことがありました。

永田さんのやり方は、「やせた土地で水や肥料を少ししか与えなくても、植物が本来の生命力を

最大限に発揮するように育てれば、抜群に糖度やビタミンの高い実ができるし、農薬も不要。」というものです。食べてみると、しっかりと中身の詰まったトマトはとても甘く、私には、野菜というよりは果物の感覚でした。一方、年配の方からは、「子供のころ畑でかじった味に、やっとまた出会えた。」と言われました。

当時は通信販売や一部の百貨店でしか手に入らないことが残念でしたが、永田農法はその後高く評価され、人気漫画の「美味しんぼ」やビジネス誌「フォーブス日本版」にも紹介されています。

こうした農法がなぜ有効なのかと長年、不思議に思っていました。アジアの熱帯雨林の再生プロジェクトが、植物学の碩学、宮脇昭氏の理論に基づいて行われていることを最近知り、納得しました。

それは、良い木を育てるために「木を密に植えて競争させる」、「多様な種類の木を共生させる」、「最高の生育条件よりやや悪い状態におき少し我慢させる」という方法です。実験室では一本の木だけです。最高最高の環境でこそ最も早く生育しますが、自然界では条件の良いところほど競争も激しく、風災害など環境変化にも適応しなくてはなりません。ですから、こうして育った木こそ最も強くなるそうです。

永田農法や宮脇理論は、人間の世界においても、重要な示唆に富んでいると思います。私たちは社会・経済情勢の影響をうけながら、人との係わり合いの中で生活しています。そこで、真に伸び伸びと立派に成長するためには、どうしたらよいのでしょうか。

たとえば、少子化による大学全入時代の現在、かえって、よい大学への受験競争はますます厳しくなっています。また、長引く経済不況が深刻化するなか、希望の就職先に合格するためには特技や資格など人より際立ったものを備えることが求められています。こうした競争を勝ち抜こうとする努力は、「やればできる」という自信として身に付き、人生に必ず役立つことでしょう。

また、普通科、生活教養科、情報商業科、調理科、音楽科と、多様な資質と個性を持つ生徒の皆さんの学校生活は、本校ならではの貴重な環境です。ぜひ、ひとりひとりの優れた才能や人格との交流を深めて、一生の友情を育てていただきたいと願っています。

時には、家庭の事情や人間関係などで悩みを持つことがあるかもしれませんが、しかし、我慢や忍耐を強いられることも、健全に生きていくための試練だと前向きに解決策を模索してください。一人だけで問題を抱え込まずに、先生や友人に相談することで、道が開けることもあると思います。

生徒の皆さんには、ぜひ、個性を伸ばして、たくましくそして周囲への配慮も忘れない、人間

性や感性の豊かな人間に成長して、輝かしい二十一世紀を切り開いていただくことを期待しています。私たち教職員も精一杯応援していきます。

永田さんの作る野菜は、多少かたちは不揃いですが、自然界で鍛えられたおかげで歯ごたえがあり美味しく、栄養価も高くなっています。私は、今回のユニクロとの提携により、永田さんの野菜が身近に食べられることを心待ちにしています。

第三章
勲章
三寶
瑞

須賀 淳校長先生に叙勲
県文化功労者としても表彰される

た功績が広く認められたものです。

勲三等の荣誉に輝く

須賀 淳校長先生の業績

須賀 淳校長先生は、大正十三年（一九二四年）九月二十日、第二代校長・須賀友正先生のご長男としてお生まれになり、宇都宮市立西小学校から昭和十二年四月に旧制県立宇都宮中学校（現宇都宮高校）へ進まれ、つづいて旧制成城高校へ進学されました。戦争のため学業途中で学徒出陣され、東大の合格通知は軍隊で受け取られ、戦後として教壇に立たれるとともに、戦争で全焼した本校の戦災復興に当たられました。

昭和二十四年（一九四九年）三月に東大を卒業後、文部省に入省され、初等中等教育局にご勤務、昭和三十

一年三十二歳で文部大臣秘書官、昭和三十七年四月に文化財記念物課長、同三十九年七月に初等中等教育局教科書課長、同四十一年七月に同初等教育課長と、文部行政の最前線の重要ポストを歴任されました。

そして文部省在職中に尽力された宇都宮短期大学の開学を機に昭和四十三年七月、四十三歳で文部省を退官され、副学長・副校長として須賀友正校長先生とともに学園の経営に当たられることになりました。本校に戻られて最初に行われた大事業が、ご就任後一か月余りで成し遂げられた校名変更です。長く親しまれてきた「宇都宮須賀高等学校」の校名を九月一日から、新たに現校名である「宇都宮短期大学附属高等学校」へ改称されたのです。

次に、学科増設に関しては、音楽科につづいて昭和四十五年（一九七〇年）に調理科（男・女）を新設、同五十四年に普通科で初の男子生徒の特進コース（翌年から女子生徒も入学）、また同五十八年には栃木県で初の中・高六か年一貫教育を行う宇都宮短期大学附属中学校を創設、同五十九年に宇都宮短期大学附属子供音楽教室、同六十一年に普通科男子進学コース、同六十三年に普通科英進コースを新設されました。また、同年家政科を生活教養科、商業科を情報商業科とそれぞれ科名変更も行いました。そして、平成六年（一九九四年）には情報商業科にも男子生徒が入学、同十一年に須賀学園創立百周年記念事業として那須大学（都市経済学部）を開設しました。同十三年に高校普通科の医歯薬特進コースを新設、

宇都宮短期大学には人間福祉学科を増設、さらに平成十四年四月から普通科英進コースに代わって応用文理コースが新設され、一大総合学園として県内私学トップの座を不動のものとなりました。

須賀 淳先生が第三代校長に就任されたのは昭和四十九年五月一日のことでした。すでに同四十五年十一月には創立者・須賀栄子先生の胸像を再建（同窓会による）、同四十八年には県下で最初のプレザ―型制服に制服を改正、同五十九年三月本県私学から初の東大合格、平成二年（一九九〇年）七月ニュージ―ランド・マヌカウ市のハウィックカレッジと姉妹校提携等、常に時代のニーズを先取りした施策を推進してこられました。

それはまた、施設・設備の充実の面にも顕著にうかがえるところであり、冷暖房完備の各校舎増設をはじめとして、昭和六十年（一九八五年）短大に須賀友正記念ホール・新2号館、同六十三年高校に創立九十周年を記念して須賀栄子記念講堂、平成五年高校に須賀学園総合体育館と、他の学園には見られない最新式の施設の新築事業に着手されました。その後、那須大学、宇短大人間福祉学科の新校舎を建築されました。

また、校長先生は本学園の多忙なお仕事のほか、栃木県私立学校審議会会長や栃木県文化財保護審議会委員等として、栃木県の教育行政に貢献されています。さらに、日本私立短期大学協会常任理事、日本私立中学高等学校連合会常任理事、栃木県私立中学高等学校連合会長として私学振興に尽力され、一方、文部省の理科教育及び産

業教育審議会委員ならびに大学設置審議会委員にも任命されて、国の教育行政にも貢献されました。

そして、昭和六十一年には、その高潔な人格と高い識見により、栃木県公安委員会委員、平成四年には同委員長に就任され、栃木県警察を管理して、県内の公共の安全と秩序維持に尽力されました。さらにまた、長年におたり栃木県文化功労者選考委員をつとめるとともに、栃木県交響楽団会長や栃木県オペラ協会会長、財団法人栃木県文化振興事業団理事、とちぎ生涯学習文化財団理事、下野新聞社客員論説委員等として栃木県の文化の振興に寄与しておられます。

このような多大な功績により、これまでも平成元年（一九八九年）十一月に私学教育功労者として藍綬褒章を受章、同三年十月に私学教育功労者として文部大臣表彰を受賞、続いて同九年十一月に県各種委員功労者として自治大臣表彰、調理師養成功労者として厚生大臣表彰を受章、さらに平成十三年十一月に栃木県芸術文化振興の功労により栃木県文化功労者となりました。

そしてこのたび勲三等瑞宝章の叙勲の栄に浴されたわけですが、第二代校長・須賀友正先生も昭和四十六年（一九七一年）十一月に勲三等瑞宝章を受章されておられますので、親子二代にわたる叙勲は極めて珍しいといふことです。

これからも引き続き、ご壮健にて学園内外のご公務に尽力されますよう、お祈り申し上げます。

平成13年度 中学・高校 教職員懇親祝賀会を開く

須賀 淳校長先生の勲三等瑞宝章叙勲と栃木県文化功労者となられたことをお祝いして、十二月一日、午後五時から宇都宮東武ホテルグランデ4階松栢の間で、中学・高校の先生方百六十名が一同に会して、教職員懇親祝賀会が開かれました。

松浦一雄先生（教務部長）と東野恰奈先生の司会で、まず最初に発起人代表のごあいさつとして太田茂雄教頭先生から、「校長先生の懇親祝賀会が多数の先生方の御参加をいただけて、かくも盛大に開催できますことは、発起人として大きな喜びとするところです。」とのお言葉をいただき、ひきつづいて、高瀬一成先生から竹馬の友として校長先生との思い出話や「勲三等」の重みと意義についての解説に加え、「今回の叙勲は本校にとつてたいへんな榮譽であり、校長先生には栃木県の重鎮として、さらに教育振興に従事していただきたい」とのお祝いの言葉がありました。

その後、校長先生と万里子副校長先生へそれぞれ山形恵子（生活教科主事）、永島利子両先生から花束の贈呈があり、校長先生から、「各関係団体等から祝賀会をとの有難いお話をいただきましたが、世の中不景気でもあり、また中東では戦争が起こっている時でもあり、固く御辞退しました。本日は、先生方の忘年会のつもりで出席さ

せていただきました。実は今年私の喜寿七十七歳の歳であり、結婚五十年目の金婚式の年でもあります。このたびの榮譽も先生方の日々のご尽力と卒業生の皆様のご活躍とによるものにはかならず、心から御礼申し上げます。」との御礼のお言葉を賜りました。

つづいて、校長先生から、築島 亨先生（普通科主事、進路指導部長）が、このたび文部科学大臣から教育者表彰を受けられたことについて、お祝いのお言葉とともに、教育者表彰の制度の成立の経緯や、その格式の高さのお話があり、英之副校長先生から記念品が、また万里子副校長先生から花束が築島先生に贈られました。築島先生からは、「これも偏に本学園のグラウンドの中の、いわば校長先生から、もらっていたのだ」と賞であり、本来先生方全員のものです。」と御礼のごあいさつがありました。築島先生ご夫妻は十二月七日に東京国際フォーラムでの受賞式、続いて両陛下拝謁に、皇居に参上されました。

いよいよ、桑野耕一先生の音頭で乾杯、懇親、余興、男声コーラスグループ・UFOと4ベローズによる合唱、土井康実先生の熱唱、田野辺郁夫先生の詠歌のご披露としてビンゴゲーム、体育科教員有志によるエッ・サッ・サ等々があり、最後に校長先生から先生方全員に記念品として校歌のオルゴールをいただき、和やかに散会となりました。



▲叙勲の解説をする懇親会世話人代表の高瀬先生



▲桑野先生の音頭で華やかに乾杯

第一期生176人が入学

短大人間福祉学科開学式行わる

昨年の五月三十日に宇短大の人間福祉学科の開学式が行われました。五月晴れの快晴に恵まれたこの日、開学にあたって尽力された各界の方々や県下の高校、中学校の校長先生など約三百人が出席されました。

式典は午前十時から宇短大の須賀友正記念ホールで、須賀英之学長代理先生の開会の辞で始まり、須賀学園理事長で、宇短大の学長、須賀淳先生が「高齢化社会を迎えるにあたって、次代を担う優秀な福祉人を育成するため、創立百年の歴史を有する須賀学園の全人教育の理念の下に、人間福祉学科を開設いたしました」と開学の理念を述べられました。

また三友雅夫学科長が、将来、介護施設などでリーダーになれる福祉士を養成したいと抱負をのべられ、その際、

介護福祉専攻一年の石川実希子さん（岩手県黒沢尻南高・出身）が手話で通訳し、福祉系学科の開学式にふさわしい雰囲気をかもし出してくれました。つづいて来賓の方々の祝辞があり、県都宇都宮市に誕生した人間福祉学科に対する期待の大きさがうかがわれました。

なおこの人間福祉学科は社会福祉専攻と介護福祉専攻との二つのコースがあり、今回は第一期百七十六人が入学しました。

つづいて式典の後出席者は、最新の施設設備を誇る三号館（人間福祉学科棟）に移動し、介護実習やレクリエーションのデモンストラーションを熱心に見学され、興味深く質問したり、お年寄や身体の不自由な人たちのための用具などを使って実体験をされたりしていました。

その後祝賀会が催され、和やかなひとときを過ごして、開学式は閉会しました。

理事長・学長あいさつ

本日、栃木県出納長（高松征雄様）、宇都宮市助役（竹原卓郎様）、黒磯市助役（原藤親男様）をはじめとして、行政・教育・福祉関係の先生方、約二百名の御臨席をいただき、宇都宮短期大学人間福祉学科の開学式を挙行いたします。ことは、大きな喜びでございます。須賀学園は明治三十三年、千九百年に私の祖母 須賀栄子により栃木県最古の私学女子教育機関として宇都宮市に創設され、昨年創立百周年をむかえることができました。

現在那須大学、宇都宮短期大学、附属高等学校、中学校と学生生徒約四千名が学ぶ須賀学園に発展いたしております。

宇都宮短期大学人間福祉学科は式次第にもあります通り、その百周年記念事業の一環として、またしめくりとして開設したものでございます。本学科の設置につきましては、長い年月をかけて準備してまいりましたが、

文部科学省や厚生労働省にご審査をいただき、昨年十二月に文部科学大臣、本年三月に厚生労働大臣よりそれぞれ設置認可をいただきました。

また、人間福祉学科固有の実習施設などを整えるため、一昨年十月に新校舎の起工式を行い、本年三月無事竣工いたしました。

この間、栃木県、宇都宮市などご当局より多くの御援助をいただくとともに各方面の先生方より御指導、御鞭撻をいただき厚く御礼申し上げます。

おかげさまで、四月一日に開学し、第一期生として百七十六名の優秀な入学者をむかえることができました。

この第一期生の皆さんは、関東・東北一円から広く集まっていたいただき、又、学校の先生、企業人、主婦など立派なご経験をお持ちの方々も、新たに福祉分野への志しを固められ本学に入学されました。

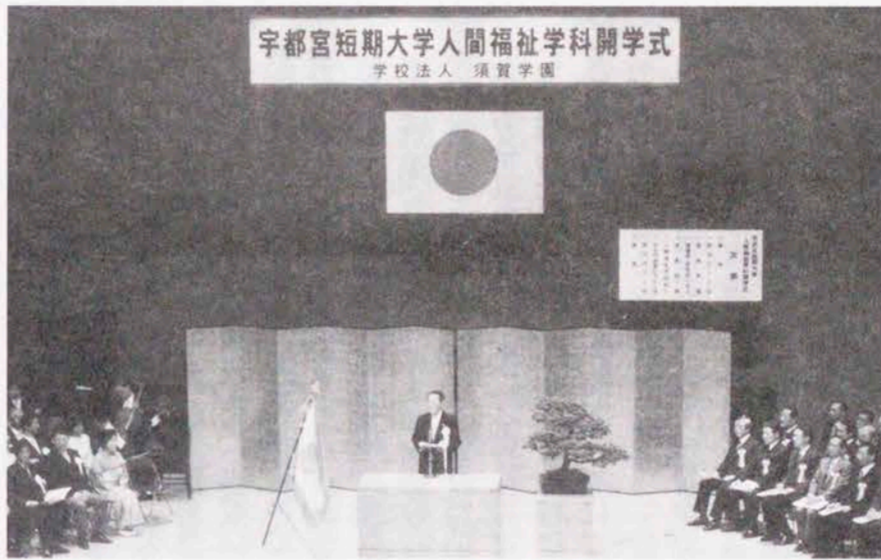
ところで、宇都宮短期大学は、昭和四十二年四月一日創設以来、全国的にも先駆的な音楽単科大学として優れた教育内容と教授陣・教育施設によって高く評価され、今日まで約三千名の卒

業生を送り出してまいりました。人間福祉学科はこの宇都宮短期大学の三十有余年の歴史と実績をいかして県央部で唯一の福祉学高等教育機関として、須賀学園の教育理念である全人教育を社会福祉分野の人材養成において実践してまいろうというものです。

現在、高齢化社会にいかに対応していくかが大きな課題となっております。介護保険制度が昨年四月からスタートし、医療保険や年金のあり方を含め社会福祉、社会保険制度をどうするかという課題が問いかけています。栃木県におかれましては「高齢対策推進計画」を、また宇都宮市におかれましては「福祉のまちづくり条例」を策定され、充実した高齢期と活力ある社会をつくることを目標に、様々な具体策をおまとめになつています。いずれも適切かつ必要な計画ですが、私は福祉施設で働く人々の素晴らしい活動をできるだけ多くの人々が理解し、一人でも多くの方が施設あるいは地域で活躍できるように福祉人材を育成することが何より必要と痛感しています。

この意味において私は、須賀学園が

▶短大人間福祉学科の開学式は須賀友正記念ホールで行われた



開学式スナップ



◀インタビューを受けられる三友学科長



◀お年より用の料理体験実習



▲お互いに介護したり、介護されたり
◀最新の機材を使用して入浴のデモンストレーション

人間福祉学科開学祝賀会

去人 須賀学園



▲祝賀会であいさつをのべられる 須賀学長



▲お互いに介護したり、介護されたり
◀最新の機材を使用して入浴のデモンストレーション

百年に亘って実践してきた全人教育にも大きな力を発揮しうるのではないかと確信を持ちました。

単に福祉の知識や介護の技術の習得に追われるのではなく、福祉の原点に立って、まず人間そのものをしっかりと知る必要があります。お年寄りや障害者一人ひとりにはそれぞれ生活してきた歴史があり、生きてきたという誇りがあります。介護を受ける人もする人も、一人ひとりが人間であるという点を自覚するところから人材を育てたいと思います。

そのためには、まず、お年寄りは人生の先輩であり、私達が暮らす社会や文化、経済基盤、地域をつくり構成してきた方々であることを知り、尊敬の気持ちで接してゆきたい。高齢者や障害者を全人格的存在としてとらえてこそ、真に心豊かな高齢社会を過ごせる世の中をつくれるのではないのでしょうか。

高齢社会の急激な進展のなかで、この分野における人材育成の重要性は言うまでもありませんが、とりわけ人間性豊かで倫理観をしっかりと身につけ、人に優しい心で接する人材が何よりも

求められていると思います。

私は宇都宮短期大学において、「一人は一人を代表する」という言葉に象徴されるように、学生一人一人がもって生まれたすばらしい能力を発揮できるように、大切に有為な人材を養成し、時代の要請にもこたえられるようにと念願しています。



施設・設備の充実している人間福祉学科棟（3号館）

祝辞

宇都宮短期大学人間福祉学科ご開設おめでとうございます。

創立百有余年の歴史と伝統ある須賀学園が、百周年記念事業として、この福祉の時代に人間を直視し、ひとりひとりにとって温かく思いやりのある福祉を実践する人材を養成されようとしているのは誠に意義あることです。

とりわけ発展する北関東の中核たる宇都宮市に、高等教育機関として初めての福祉専門教育大学が誕生したことは、地域福祉の充実のために大きな役割を果たすに違いありません。

宇都宮短期大学人間福祉学科は教育スタッフ、カリキュラム、施設設備すべてにおいて二十一世紀の福祉分野のモデル大学です。皆様のご活躍を心から期待しております。

平成十三年五月三十日

日本社会事業大学学長
（厚生労働省社会保険審議会委員、日本社会福祉学会理事）
京極高宣

学園告知板

本校先生方による

短大人間福祉学科見学



▲新しく開学した短大人間福祉学科で入浴の実習を見学する先生方（6月6日）

短大に新設された人間福祉学科の本

中・高校先生方の見学会が、六月六日（水）に行われました。
 まず、須賀友正記念ホールで、ビデオによる全般的な紹介、そして新学科の内容説明をお聞きして、施設の見学と実習体験に移りました。
 明るく、機能的で、最新鋭の設備を完備した3号館校舎の概要は、以下のとおりです。1Fが介護実習室、入浴実習室、調理実習室や多目的ホール。2Fがコンピュータ実習室、講義室、教員センター。3Fはグラウンド側からの一階に当たり、学生ホール（食堂）や学生広場、事務室。そして4Fが図書館・閲覧室と会議室となっています。
 これらの説明と見学の間に、新生一年生の学生さんたちによる老人介護や入浴の実習風景やレクリエーション施設などの紹介がありました。みなさんもぜひ一度足を運んでみてください。

中国・四川大学から来校

中国・四川省から、四川大学副学長・揚繼瑞先生、同大学経済学院院长・李天徳先生と日本研究センターの姚順先生の三名が、四月十六日（月）に本校を訪問されました。



▲生徒会役員と交流の四川大学の先生たち（前列中央の3人）

三名の先生方は、普通科をはじめ生活教養科、情報商業科、調理科、音楽科それぞれの授業・実習風景を視察されましたが、須賀栄子記念講堂や総合体育館、さらに音楽棟の個人レッスンス室や調理室、被服室などの教育施設には殊に興味を示され、揚副学長先生は、「こんな素晴らしい学校で勉強している生徒の皆さんは、本当に幸せです。短い時間の見学でしたが、たいへん印象深く拝見しました。」と、感想を述べておられました。

アンナさん帰国
 一年間の留学終えて

スウェーデンのヨックモック市から一昨年九月、交換留学生として宇都宮市西ロータリークラブの招きで本校にやってきた、（ひめまつ56号で紹介）、サラ・アンナ・セシリア・クーメンさん（18）が勉強期間を無事に終えて六月に帰国しました。
 本校の制服もすっかり身についたア



▲母国のテレビに収録されるアンナさん

ンナさんは、お世話になった三年一組の皆さんとお別れ会のあと、職員室で先生方にお礼の言葉を述べました。
 上手な日本語で「私がここに来た時は日本語が分からなかったが、今では話すことができるようになりました。このような機会を与えてくださった須賀校長先生、そして他の先生方本当にありがとうございます。
 私はこの学校が大好きです。日本が大好きです」と話していました。
 なお帰国に先立って昨年の五月一日に、留学中のアンナさん取材するた

敬老の日に贈物

め、はるばるスウェーデン北部にあるノードニクテレビ会社のプロデューサーとカメラマンの二人が来校し、アンナさんの留学の様子をカメラに収めていきました。

生徒会恒例の敬老の日のプレゼントは、今回の七十五歳以上の該当者は七百十五名（男二百九十七名、女四百十八名）で、生徒の皆さんからの心づくしの有田焼の「ごはん茶碗」が贈られ、大変喜ばれました。
 該当者の中で最高齢者は二年十六組中山彩子さんの曾祖母、チヨさんの百二歳でした。

おめでとございます。いつまでもお元気で。

お礼状の一部をご紹介します。

前略

この度は敬老ということで御祝の品を戴き有難うございました。

どうぞ、先生方、また生徒会の皆様
お健やかに二〇〇一年を希望を持って
生きて下さい。先ずは御礼まで
贈られし器の外にかかれある
兔は跳ねる月に行くまで
宇都宮市 佐藤 登志

スクールコンサートに参加

「邦楽や日本舞踊を鑑賞しよう」と、
六月十三日(水)に須賀栄子記念講堂大
ホールで、スクールコンサートが開か
れました。これは、宇都宮市教育委員
会・文化協会・邦楽協会などの共催に
よるもので、この日は、本校の附属中
の生徒と高校音楽科、生活教養科の生
徒が鑑賞しました。
まず、第一部では、日本古来から伝
わる箏や尺八など邦楽器の紹介があり、
次に、扇子を使っての日本舞踊の表現
法の解説、そして、本校高校生二十名
が浴衣姿で出演、箏曲に合わせて日舞
を披露する体験発表コーナーがあり、
大喝采を浴びていました。
続く第二の演目は、以下のとおりで



▲生徒たちの中に入ってきて扇子の使い方を教えてくれました

す。箏と尺八による宮城道雄・作曲
「春の海」の演奏。また「ゆら」という
鹿児島県で夏に咲く花をテーマにした

本を殺さないために 文化講演会開く

テレビや新聞で有名なノンフィク
ションライター佐野眞一先生の文化講
演会が六月八日本校で開かれました。
演題は「『本』を殺さないために」と
いうショッキングなものです。
佐野先生は「本を生かすも殺すも、
あなたの方読者次第」とご自分の体験談
やエピソードを折りまぜながら約一時
間にわたってお話しました。特に人生
を変えるのが本であると強調し、講演
のあと、主催者の財一ツ橋文芸教育振



▲本を生かすも殺すもあなたの方と語る佐野先生

興会から集英社文庫百冊と佐野先生の
ご著書が本校図書室に寄贈されました。

投書

暗いニュースが多い世相ですが、本
校ではこんな心あたたまる、うれしい
ことがありますので、お知らせいた
します。(編集部)

前略 今年もう早霜を迎えようと
しております。毎日生徒の教育に日夜
ご精励され心から敬意を表するもので
す。さて私の家は裏通りで貴生徒の通
学路にもなっており、毎日元気な声、
又笑い声などが聞こえ、老夫婦にも若
さを与えてくれます。

先日の日曜の午後、塀の上で仕事を
していると元気な声で「今日は」と声
をかけられて、思わず思わず「今日は」
と返事。知人かと思いい顔をみると貴校
の女性徒の二人、思いやりのある良き
生徒だな、と心で感じました。遠く去
り行く二人を追い、名を聞くと横田、

片柳とのこと。部活後の帰りではと思
いました。
文武に心掛けているものと感じた次
第です。

この小さなことでも高齢者にとつて
は嬉しく感じるもの。夕食のどが一杯
になりました。たった一言が他人を
喜ばせると感謝いたしているものです。
宇都宮市西大寛一の六
黒川芳夫(七十四歳)

〔編集部注〕

この二人の生徒は一年二十組の横田
潤子さんと二年二十一組の片柳早苗さ
んの二人で、ともに剣道部に所属して
います。このように小さな心づかいが、
人の心をうち、社会を明るくするの
です。みなさんもぜひ、心がけてくださ
い。

拝啓

秋も深まり、一段と朝夕の寒さが厳
しいこの頃でございます。

先日の宇都宮短期大附属高等学校の
学園祭は、大変素晴らしい学園祭でし

た。私は高一の保護者で東京出身者で
ございますが、宇短附高は素晴らしい
高校です。講堂で行われた、全ての催
しを見ました。「素晴らしい」の一言
です。部活で息子がお世話になってい
ますが、息子が部活を通して、逞しく
成長していくのを感じております。
来年は学園祭が無いと聞き、残念に
思います。

これからの子供たちの成長を心より
期待しております。
妹も宇都宮短大附属高校へ入学させ
たいと心より思いました。
今後共、よろしくお願ひ申し上げます。
(十一月二十六日受)

〔編集部注〕

今年学校祭にかかわって、大運動
会が行われる予定です。

守谷浩和先生が急逝

みんなに慕われていたのに……

「温和さを絵にかいたような……」と産経新聞にも追悼記事が大きく掲載されましたが、生徒の皆さんはじめ保護者や同僚の先生から親愛され尊敬されていた守谷浩和先生が六月四日朝、出勤途中、交通事故による不慮の死をとげました。それも歩道を歩いていたのに、

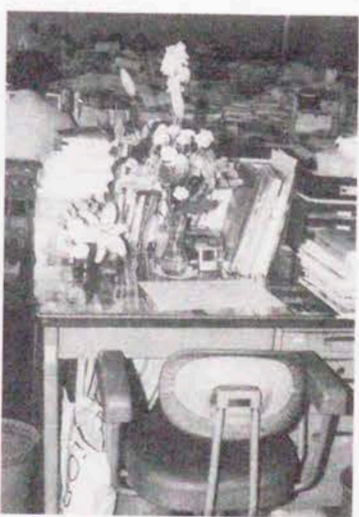


▲在りし日の守谷先生

に、二台の車の衝突によるものでまことに悲しいことでした。先生は三十八歳の若さでした。

この日の朝、七時二十分ごろ、守谷先生は出勤のため日光街道の中戸祭バス停に向かつておりました。その時、日光方面から走ってきたクルマと、道路に出ようとした同所のタクシー会社のクルマが衝突、その一台が歩道に乗り上げてきて、守谷先生をはねたのでした。

守谷先生は早稲田大学教育学部を卒業され、昭和六十三年から本校に勤務し、社会を担当してまいりました。葬儀は六月七日に行われ、須賀校長先生が弔辞を捧げてご冥福をお祈りしました。



▲主のいない机上に飾られた生花

校長先生の弔辞

本日ここに、守谷浩和先生の御葬儀に当り、宇都宮短期大学附属中学校・高等学校の教職員を代表して、謹んで哀悼の言葉を捧げます。

守谷先生の突然のご逝去に、私たちは、ただただ呆然といたしております。前日まで、生徒たちと御一緒にあんなにお元気でがんばっておられた先生が、忽然として幽明、境を異にしてしまわれ、このような形で先生とお別れすることは、いまだに信じられない気持ちであり、まことに残念で仕方ありません。

胸のふさがる思いがいたします。また、幼いお嬢様のことは、さぞや、先生のお心残りだったことと思います。今後、私たちは、できる限りのご支援、ご協力をさせていただきますと存じます。守谷先生、先生のご家庭はもちろんのこと、学校や生徒をいつまでも天国から見守り、励ましていただきたいと願っております。

お別れのときが参りました。先生への思いはいつまでも尽きません。守谷先生、どうぞ安らかに眠りください。平成十三年六月七日

宇都宮短期大学附属中学校・高等学校長
須賀 淳

思い起こせば、先生は、東京のお育ちであり、早稲田大学教育学部を御卒業後、東京の駿河台学園に勤務しておられました。私は先生のすぐれた学識と卓越した指導力を見込み、昭和六十三年四月、宇都宮短期大学附属中学校・高等学校の社会科の教諭としてお迎えいたしました。以来、中学・高校の特進コースの学級担任や社会科の教科主任等の重責を担われ、教育に対する熱意と生徒に対する愛情とをもって職務に精励され、その明るいご性格により、学校に清新発らつとした気風をみなぎらせてくださいました。

先生は責任感が強く、几帳面なお仕事ぶりは私の敬服するところでありました。同僚の先生方やご父兄からの信頼もきわめて厚く、生徒たちからも敬愛され、本校における中核の先生として、その将来を大きく期待されておりました。

先生は、本校の建学の精神である全人教育の理念を深く理解され、どの生徒に対しても、それぞれの個性を見だし、長所をのびし、ひとりひとり指いねいに、親切に、きめこまかにご指

導していただきました。先生のご熱心で献身的なご指導により、本校の卒業生は、東大をはじめとする難関大学へ進学し、現在社会の各方面で活躍しております。まさに、身を挺して生徒のご指導に当り、今日の宇短大附属中学・高校の特進コースの基盤をつくられたのであります。

先生が受け持たれていた附属高校三年一組の生徒たちに、私は、先生の訃報に接して、直ちに朝礼で、「この悲しみをのりこえて、勉学に励み、希望の大学への合格を果たし、立派な社会人になることが、先生へのなによりのご恩返しである」と申しました。帰らぬ人となられました先生の御霊前に、私たち教職員一同は、先生のご意志をしっかりと受け継ぎ、本校生徒の教育に、いっそう邁進することをお誓い申し上げます。

生徒を愛し、またどんなときでも周囲を和やかに包み込んでしまう温かいお人柄の先生でありましたから、ご家庭においても、良き夫、良き父親であったことと思います。残されたご両親様や奥様のお悲しみはいかばかりかと、

編集後記

皇太子さまご夫妻に敬宮愛子さまが誕生になったことを除けば、長引く不況と不安定な経済状況、そして昨年九月の米同時多発テロと宗教・民族紛争等、暗いニュースばかりの多い一年―二十一世紀最初の年―でした。にもかかわらず、本学園では、昨年十一月に須賀 淳校長先生が栃木県の文化功労者になられたのみならず、天皇陛下から勲三等瑞宝章を受けられるという、二重の喜びに包まれました。本号は、その記念特集号です。

昨年度の「ひめまつ」は、「須賀学園創立百周年記念特集号」というものでしたが、それによると創刊号は、敗戦間もない昭和二十二年の三月に出されたようです。しかも驚いたことに、前年四月に「須賀高等女学校」と校名改称をして現在の校舎のある睦町で授業が再開されて間もなく、二年後の昭和二十三年四月には、学制改革により「宇都宮須賀高等学校」とさらに校名変更された、たった二年間だけの校名をもつ、「女学校」時代の記念すべき創刊号だったのです。

去年の、創立101周年を記念して開催された学校祭の「編集委員会コーナー」で初めて目にした創刊号―今、改めて、本学園の長い伝統と、今回の第五十六号にまで脈々と流れる、語り部としての息吹を、感じさせられています。そして、この精神は、ぜひ読者の皆さんによって、次号へと継承して欲しいと思います。

最後に、本誌の執筆・編集に御尽力をいただきました生徒の皆さん、多くの先生方、また各クラスの編集委員、そして懇切なる御指導を賜りました顧問の柳清和、和久誠、石川智規の各先生方に心から感謝申し上げます。
(編集委員長 白土智恵)

校史と校章

平成13年はミレニアム（新1000年紀）、21世紀最初の年でした。また本学園は11月3日に創立101周年の記念日を迎えました。すでに最大の記念行事として、平成11年4月には全国初の都市経済学部をもつ那須大学が開学し、また昨年4月には、普通科に医歯薬特進コース、そして短大に待望の人間福祉学科が増設されました。さらに、この平成14年4月には、普通科に新たに応用文理コースが増設されます。

思えば、本学園は明治33年（1900年）に須賀栄子先生によって創立されました。栄子先生は、女子に最も喫緊な技芸を教授され、その時代と境遇に順応すべき実践的婦人の養成を本学教育の趣旨となし、共和裁縫教習所から明治34年共和裁縫女学校、大正13年宇都宮須賀女学校、昭和7年宇都宮女子高等職業学校と校名を改め、学校を発展させてゆかれました。その後を第2代校長の須賀友正先生が受け継がれ、昭和21年須賀高等女学校、同23年学制改革により宇都宮須賀高等学校と校名変更をし、さらに同42年宇都宮短期大学（音楽科）を新設し、高校も宇都宮短期大学附属高等学校と改名されました。

その友正先生の後を引き継がれたのが、第3代目現校長の須賀淳先生です。先生は、昭和58年宇都宮短期大学附属中学校（中・高6か年一貫教育）を併設され、那須大学開学、短大の学科増設と、ますます学園を発展させ現在に至っています。

我が校の生活目標である「一人は一校を代表する」という言葉の意味は、本校生徒一人一人が、それぞれに自らの価値を知り、その価値を自覚して生活することこそ人間の大きな喜びにつながり、幸福への第一歩にもなるというものです。ここには、創立者須賀栄子先生が掲げられた「全人教育」の精神が、100余年かわらずに脈々と生きつづいています。

また、現在に至るまで、本校にはいくつかの校章がありましたが、現在の校章は、カタカナの「ス」を3個組み合わせて図案化した須賀家の合印で、その中央に「高」の文字が挿入されています。（合印とは、いわば目印のようなもので、昔戦場で敵味方が入り乱れて戦うとき、その腕につけさせ、敵か味方かが見分けられるようにしたものです。）これは、須賀家の家系譜から第2代目校長須賀友正先生が校章と定めたもので、文字は金色、生地は純白色ですっきりとしていて、いかにも清純な感じのする校章です。現校旗と同じ、昭和34年11月3日に創立60周年記念事業の一環として制定されました。

「ひめまつ」第五十六号（非売品）

平成十四年三月一日印刷発行

宇都宮市睦町二番三十五号

宇都宮短期大学附属高等学校

編集人 顧問 柳清和

発行人 生徒会長 手塚彩由美

印刷所 宇都宮市鶴田町二三五九の一

ヤマゼンコミュニケーションズ株式会社

〇二八六四八二二二

印刷人 山本征一郎

発行所 宇都宮短期大学附属高等学校生徒会

〒320 8585

TEL〇二八六三三四四一六一―二三番

FAX〇二八六三三三三五四〇

ホームページ <http://www.utant-fh.ed.jp>